

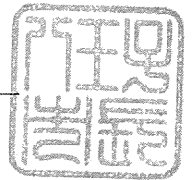


20 八計交収第 61 号

平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省
道路局長 殿

八王子市長 黒須 隆一



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成 20 年 9 月 19 日付 国道企第 37 号 により依頼のあったこのことについて、別紙のとおり提出します。

提出資料（別添）

今後の道路行政についての意見・提案

- ① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など
- ②－1 地域の現状と抱える課題
- ②－2 地域の目指すべき将来像
- ③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

《高速道路料金は、コストからコントロールへ》

これまで我が国の高速道路料金は、建設費を通行料金で賄うという基に決められてきた。このためせっかく高速道路を整備しても、高い料金から有効に利用されない状況が見られている。

これからは、ロードプライシングの考えのもと、高速道路ネットワークを有効に利用し交通の分散が図られるような料金体系の構築を図られたい。

《道路財源の適正な地域間配分を》

巷では、都市における道路整備はもう充分ではないかとの意見も聞かれるが、渋滞による環境の悪化や・経済損失などを考えると、まだまだ都市における道路整備の必要性は高いものがある。

これを算付けるように、ある調査によれば、時間短縮効果による費用便益を地域ごとと比較した場合、地方部に比べ都市部で高い便益が得られたとの結果もある。

このようなことから、地域配分を行うにあたっては、適正な評価指標の基に的確な配分を行って欲しい。

《地域の実情に合わせた支援制度の確立を》

地域において、取り組みべき課題はさまざまであり、課題解決に向けた手段としての道路行政もまた多面的な顔を持っている。こうした地方独特の取組みにも柔軟に対応できる制度、また、やる気のある地方にはより高い支援が得られるようなくみづくりを進めて欲しい。

さらに、価値観の多様化する中、厳しい財源で事業を進めていかなければならず、事業期間も長期化する傾向があることから、事業期間についても国レベルでの尺度ではなく、地方に対しては財政規模等を鑑みた中での適正な期間の設定ができるような制度をお願いしたい。

《受益者負担の再認識を》

道路特定財源の一般財源化を鑑み、道路を使用しているカーユザーが納めるべき税の他用途への還元について疑問の声も多々ある中、受益者負担の原理に今一度立ち返り、真に必要な道路整備、高速道路料金の値下げ、有料道路事業への早期償還など、その使用等について再度原点に立ち、評価検証願いたい。

《公共事業円滑化に向けた新たな取り組みを》

道路事業など公共事業全般においては、事業に必要な用地の早期確保が事業進捗の要となるが、土地提供者における生活設計などの指針と事業者の思惑との間に埋められない溝が存在し、事業遅延の原因となることも事実である。トラストラ行動などの良識で判断しにくい案件に関して、強制収用など土地収用法を駆使し、毅然とした態度で取り組むことは大いに賛成であるが、先祖伝来の貴重な土地を提供してくれる地権者や、早期協力者への税制上の特典など、真の協力者に対する現行法のしくみに柔軟性を持たせ、事業円滑を推進するための新たなしくみづくりを検討願いたい。

○現状

☆ **首都圏西部の交通の要衝地で先端産業の核となる都市**
八王子市は東京の西部に位置し、国道16号と国道20号、中央道と圏央道が交差する交通の要衝地であるばかりでなく、米国シロコンバレーも凌駕する先端産業が集積する広域多層圏の中心地としての顔を持っていることから、幹線道路を中心に交通が集中している。特に北西部地域などは東部地域のニュータウンに比べ道路などの基盤整備が遅れており、圏央道開通を機に整備効果を充分活用したまちづくりを予定している。

☆ **山手線内の3倍という広い市域に拠点が点在**
市域は東西約24km、南北約13km、面積186.31k㎡で、これはJR山手線に囲まれた地域の約3倍となっており、この広域な行政区域内に、国道20号沿線の中心市街地をはじめとして地域拠点が点在し、それぞれ地域の特色を活かすとともに、相互に都市機能を補完しながら市の発展に寄与している。

☆ **観光名所が世界的に有名なミシュラン三ツ星を獲得**
本市は歴史のまち、ニュータウン、学園都市、国際的観光地など多面性を持っているまちである。中でも市西部に位置する高尾山は都市近郊にありながら年間250万人もの観光客が訪れる世界的にも類を見ない観光地として、平成19年4月にフランスのミシュラン社が認定を行っている調査で三ツ星を獲得した。

☆ **環境にやさしい交通需要マネジメントの推進**
平成16年度に策定した「新八王子市総合都市交通体系整備計画」で余暇やスポーツなどの意識が強い自転車について通勤、通学などの移動手段としての位置付けを明確にし、公共交通と連動した交通需要のコントロールを図るべく、パークアンドバスライドや河川沿いのサイクルロード整備を行っている。

○課題

☆ **広域幹線道路の更なる充実とポトルネック箇所の解消**
市域には、河川や丘陵地が広がっており、このため国道など一部の幹線道路を除いて市内外を結ぶ道路がないため、この部分がポトルネックとなっており、渋滞の原因となっている。
特に近年発展が著しい市南部地域と都心部を結ぶ道路が不足しており、国道20号八王子南バイパスの早期整備はもろろのこと、さらに東側の国道20号日野中央線による地域の分断やポトルネックの存在、また、市内でもJR中央線による地域の分断やポトルネックの存在、国道16号の幅員不足などが課題となっている。
また、圏央道八王子西ICが横浜方面へのハーフICであることが、圏央道の整備効果を十二分に活用したまちづくりや物流拠点を推進する上で一つの課題となっている。

☆ **中心市街地の賑わいに資する安心安全で誰にもやさしい道路環境づくり**

本市は、先の大戦における空襲で市街地の9割以上が焼失する被害を受け、戦後、戦災復興特別都市計画の指定を受け市街地の復興を行い、市街地での都市計画道路の整備率は高いものがあるが、現在の道路の基準に比べ幅員をはじめとした整備水準が低いことから、中心市街地の活性化に向けてバリアフリー化や安全性向上に対応した新たな整備が望まれている。

☆ **生活道路の質の向上と拠点を結ぶ交通環境の充実**
中心市街地をはじめとした各拠点の活性化に向けた検討を進めているが、その中では、各拠点を結ぶ道路網の不足が指摘されており、地域活性化のための道路整備もまだまだ必要とされている。さらには、周辺部では依然として狭隘な生活道路が多いことから、居住環境や安全性向上のためにも、生活道路の質的向上が不可欠となっている。

☆ **地域資源を有効活用したまちづくり**
ミシュランの三ツ星を獲得した高尾山などを有する西部地域は圏央道の整備効果により山梨、埼玉、横浜、都内方面からのアクセスが著しく向上されることから、増加が想定される来訪者の駐車場確保や周辺道路のアクセス性向上など、需要供給のバランスが取れたマネジメントの確立が望まれている。

☆ **環境にやさしいまちづくり**
本市はJRや私鉄、モノレールを含めて21駅を有する都市であるが、中心市街地を含めた各交通結節点である主要駅までの安全な自転車、自転車の導き方や受け皿となる駅周辺における駐輪対策を含めた総合的なサイクルネットワークの早期構築が望まれている。

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力・ポテンシャルの向上	☆交通結節機能の充実 圏央道、八王子南B P、16号拡幅などの直轄事業の早期整備 圏央道八王子西ICのフル化 ☆ソフトラ対策による機能の充実 使いやすい高速道路料金体系の見直し ☆地域・拠点間の有機的な連携 16号拡幅などの直轄事業の早期整備 16号B P有料区間の早期無料化 都・市施工の都市計画道路整備に資する財源確保、補助率の向上、地方負担分の軽減措置	・利便性向上に伴う内外からの求心力の向上 ・首都近郊の利便性を活かした企業などの誘致による雇用枠の拡大 ・圏央道の整備効果を活かした物流拠点整備による経済波及、雇用、税収効果 ・交通分散化によるCO2削減、温暖化抑制及び首都圏物流の効率化 ・渋滞解消に伴う移動時間短縮による経済効果 ・観光などの地域資源の有効活用	
地域特性に対応した安心・安全な生活環境の構築	☆地域特性に対応した安心・安全な生活環境の構築 地域の道・コミュニティ道路など生活に密着している生活道路等の歩道設置、バリアフリー化などの安全性、利便性、景観に配慮した整備に対する補助枠拡大等のまちづくりにおける支援強化(国と地方の役割分担、相互協力)また、八王子南B P開通時に国道20号交通量の削減に伴う、車線数を減少させた自転車の整備推進(既存ストックの有効活用)	交通事故減少など安心・安全、利便性の高い住み良いまちを形成することによる居住人口の増加、それに伴う税金等財源収入の向上	
災害に強い総合的な地域社会の形成	☆交通ネットワークの充実 本市の都市計画マスタープランで位置付けられている各地域間、拠点間を結び、市内5環状道路(都心環状、中環状、外環状)をはじめとして地域間を連携する都市計画道路の早期整備を推進するための財源確保、補助率・率の拡大、地方負担分の軽減措置	災害時における負傷者の搬出時間、救援物資の搬入時間の短縮が可能及び緊急車両の円滑な移動が可能となることによる延命率の向上、火災家屋の減少	